

水戸市中心市街地活性化協議会『運営委員会』報告書

- 【日 時】 平成25年3月4日（月）／ 午後1時30分～午後3時
【場 所】 水戸商工会議所 第1会議室
【出席者】 委員32名（内委任状出席9名）、アドバイザー1名
【報告者】 水戸市中心市街地活性化協議会事務局（水戸商工会議所 振興部 商工振興課内）
【協議事項】 （1）平成25年度事業実施に向けた協議会としての基本的な考え方について
（2）各部会の事業対応について
- 【議 長】 齋藤典生 運営委員長

水戸市中心市街地活性化協議会の平成25年度事業実施に向けた協議会としての基本的な考え方などについて協議する運営委員会を開催した。

1. 開 会 事務局から規約に基づく定足数を充たしており会議成立を報告した。
2. あいさつ 齋藤典生 運営委員長

議事に入る前に事務局から運営委員の変更を紹介した。

(株)水戸京成百貨店 取締役総務部長 中村 雄一郎氏
一般社団法人 茨城県バス協会 専務理事 澤島 政志氏

3. 協 議 規約により齋藤典生運営委員長を議長に協議に入った。
（1）平成25年度事業実施に向けた協議会としての基本的な考え方について
（2）各部会の事業対応について
（1）と（2）について関連があるので、あわせて協議した。

資料1 「水戸のまちなかにおけるメリット等の再整理について」

事務局から説明。コンセプト、戦略を導き出すために「水戸のまちなかのメリット、デメリット、困るもの」等を各部会、調整会議のメンバーに提出していただき、一覧にしたもの。

資料2 「水戸のまちなかにおけるメリット等～評価軸による意見集約」

松本氏から説明。資料1を評価軸によってまとめたもの。

資料3 「水戸まちなか再生の強化事業」

松本氏から説明。資料2から再生・強化すべき資料を部会別に割り振りしたもの。

人材育成部会は、調整会議の議論で現在の部会にその役割を事業に応じて担ってもらう方向になり、新設しないことになった。

資料4 「今後の運営について」～「基本方針メモ」

三上氏から説明。上記の資料をさらに展開し、大きく協議会の運営を見直すために作成。これまでの調整会議で行ってきた流れを説明した資料。

資料5 「水戸市中心市街地活性化の基本方針」

三上氏から説明。調整会議で、これからの基本的な考え方、基本戦略をとりまとめたもの。

資料6 「全体と部会運営メモ」

総会の資料に、資料5の基本方針を推進していく上で、これからの部会の新しい事業案として、新市庁舎提案メモ、松本メモを追加したもの。

【主な意見】

- 深谷氏・・・バラバラで行われているイベントなどに横軸を通すためにまちづくり会社について議論した。情報を共有して整理したい。3部会だけで事業を進めるのは難しい。
- 平松氏・・・メリット、デメリットであるが、どの部分まで踏み込んでいくかが重要。考え方をどう具現化するかが先に出てくる部分。
ある一つの命題を出して動き出すと一歩進めていけるのでは。それが全体の動きにつながる。
- 大橋氏・・・震災で大きく変わった。商業機能が劣化している。まちづくり会社を早急に立ち上げてほしい。調整機能も大切であるが、具現化するのがもっと大切。少しでも早く事業を進めてほしい。
- 出井氏・・・この基本方針をやろうとすると、市民に負担をしいることになる。徐々にこういうふう誘導していくしくみが必要になってくる。そのしくみをこれから考えていく必要がある。
- 三上氏・・・ライフスタイルの転換が必要。市と協議会が連携して取り組んでいきたい。
- 澤島氏・・・100円バスだが、市も含めて要望があれば、バス事業者ものっていける。赤字の負担を誰がするのかできれば可能。
- 山形・・・参考資料は中活協全国交流会の資料。中活基本計画事業一覧は、諫早市の事業の進捗状況を表にしたもので、平成25年度以降同じ取り組みを目指したい。
- 横須賀氏・・・デメリットもひとひねりすれば、個性的な街になる。
- 三上氏・・・デメリットも使い方を考えると生かせる。基本的な考え方の「リ・デザイン」には、そういった意味も含まれている。

ここで、齋藤委員長が「以上の視点を踏まえて、3つの部会で具体的なプラン作成に入っていただきたい。ベースとなる考え方は資料5『水戸市中心市街地活性化の基本方針』でよろしいか」と諮ったところ、出席者から同意を得た。

最後に、齋藤委員長が茨城大学を今月で退官されるのに伴い、この会議をもって運営委員長を降りることになり、ごあいさつをいただいた。

次の運営委員長が決まるまでは、松本副委員長に代行をお願いすることになった。

以 上